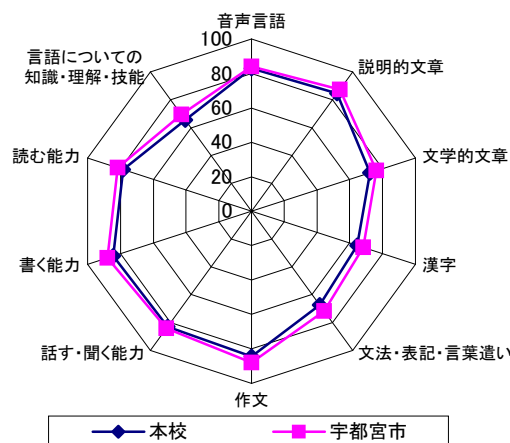


# 宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	83.0	84.1
	説明的文章	84.6	87.3
	文学的文章	72.2	76.3
	漢字	64.5	68.1
	文法・表記・言葉遣い	67.4	71.8
	作文	84.4	88.0
観点別	話す・聞く能力	83.0	84.1
	書く能力	84.4	88.0
	読む能力	78.4	81.8
	言語についての知識・理解・技能	65.5	69.4



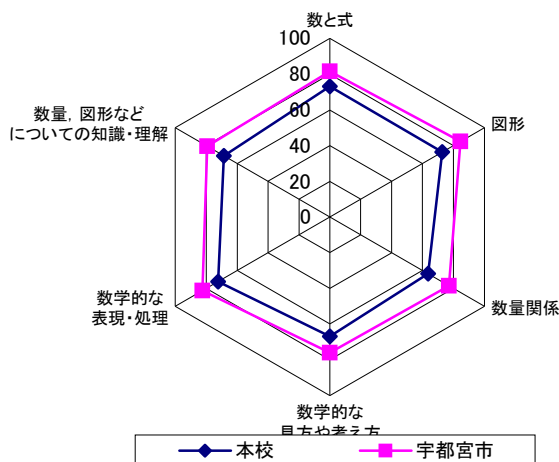
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (83.0%)	おおむね市の平均や昨年度と同等であり、大まかな内容は捉えられているが、「話の趣旨の聞き取り」が、市の平均を下回っており、昨年同様課題として残った。聞き取りメモの取り方の工夫や話の内容を理解する力が必要である。	メモを取りながら話を聞くことに、慣れていないところもある。的確にポイントを押さえてメモを取る力を身に付けさせ、授業中も板書だけではなく、話を聞いてメモしたことをノートに取らせる指導もしていく。
説明的文章 (84.6%)	昨年度に比べて正答率は上昇しているが、市全体も上昇しているため、昨年度と同等といえる。説明的な文章の読み取りの基本である「接続語の補充」や「語句が指示する内容」などは、おおむね市の平均と同等である。しかし、市の平均に比べて「文章に即した内容の理解」や「文章の趣旨」が下回っており、読み取る力が不十分であるといえる。	文章を丁寧に読むことを心がけさせ、文章の中心部分と付加的部分(事例など)をしっかりと読み分けができるように指導を工夫していく。また、各段落の要点を比較しながら文脈をつかみ、最も言いたいことが何かをつかめるようにさせたい。
文学的文章 (72.2%)	昨年度と比べると、6.2ポイント下がっているが、市の平均も昨年度に比べて低い。「語句の補充」や「文章の主題」については、昨年同様市の平均を下回っており、引き続き課題が残った。読む能力が不十分である。	主題は文章の裏に隠されていることが多いので、強い感動が表れる場面や人物の心情を通して読み取りができるように指導を工夫したい。読書は習慣化されつつあるので、良書紹介などを効果的に取り入れて、読書を奨励していく。
漢字 (64.5%)	本校の平均も市の平均も、昨年度に比べて7～8ポイント下がっている。昨年度に引き続き市の平均を下回った。「漢字の読み」については、おおむね良好であるが、「漢字の書き」が不十分である。これは、市全体でも同じことがいえる。	漢字の書き取りについては、大まかな形を捉えながらも、細かい部分のまちがいが多い。家庭学習も含め、漢字の書き取り練習を強化すると同時に、細かい部分まで確認していく指導をしていく。また、漢字の書き取りの小テストを継続的に実施し、確実に身に付けさせたい。
文法・表記・言葉遣い (67.4%)	昨年度に比べて、20ポイントも下がってしまった。しかし、市の平均も同じくらい下がっており、市との差は昨年と同等である。「敬語の使い方」は市を上回っており満足できるが、「同音異義語の識別」が市全体を含めて不十分であった。内容によって、理解の差が大きい。	同音異義語については、漢字の形だけを覚えるのではなく、漢字の意味を理解したうえで覚えていくように指導を工夫していく。文法については、文法の学習時だけの指導にとどまらず、普段の授業の中で、機をみて指導を繰り返し、知識として覚えるのではなく、使っていく中で身につけていくようにしたい。
作文 (84.4%)	昨年度より市の平均は変わらないが、本校の平均は3ポイント下がった。特に説明的文章の「意見の記述」が、市の平均を大きく下回った。長い文ではないが、要約してまとめる力が不足している。	内容を要約したり、心情を読み取ったりするときに、短い文でまとめる活動を多く取り入れ、書くことに慣れさせたい。書くことを苦手としている生徒には、書くパターンを例示して反復練習をするなど指導を工夫していく。

# 宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	73.1	81.5
	図形	72.6	84.3
	数量関係	63.5	76.8
観点別	数学的な見方や考え方	66.8	76.0
	数学的な表現・処理	72.3	82.3
	数量、図形などについての知識・理解	68.4	79.2



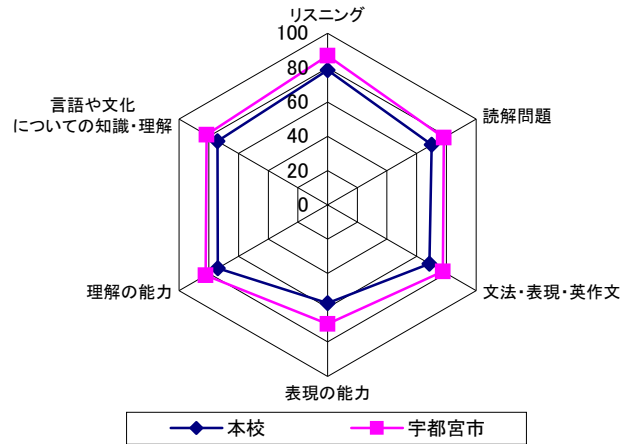
## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (73.1%)	<p>昨年度と同程度であり、満足できる状況とはいえない。特に平方根に関しては、根号がはずせる計算や、根号の中の数小さくするような変形の理解が不十分である。平方根の理解は、2次方程式の解を求める際に不可欠なため、2次方程式での不正解につながっているものと考えられる。</p>	<p>平方根の学習において、根号を利用した計算の仕組みを正しく理解させ、その練習の時間を十分確保することが必要である。そのため、問題集を活用し宿題として出すことで、授業と家庭での反復練習の機会としていく。また、全体的に計算力が十分身に付いていない状況にあるので、個々の能力にあわせて必要に応じて1、2年またはそれより前の復習の機会を設けていく。</p>
図形 (72.6%)	<p>昨年度と同程度であり、満足できる状況とはいえない。図形に関しては、相似の分野のみであるが、相似比についての知識が身に付いていない。また、相似条件に関しては、市の平均正答率と20ポイント以上開きがあり、相似条件を正しく覚えていない様子もみられる。</p>	<p>相似の学習において、身のまわりから拡大・縮小された図形を取り上げることで、大きさは違っても同じ形をしたものが相似な図形であるということを正しく理解させたい。そして、辺の比や角度などを実際に測ることを通して、体験的に相似について理解を深めさせ、相似比や相似条件について学ばせる。 また、覚えなければならないことは確認テストなどを実施し、全生徒への定着を図っていく。</p>
数量関係 (63.5%)	<p>関数分野に関しては、昨年度よりも5ポイント以上下がっている。回答の状況からもどの問題についても市の平均を下回っており、表、式、グラフについての理解が不十分であることがわかる。 比例定数を求めたり、グラフをかいたりすることを苦手としており、演習量の少なさが目立っている。</p>	<p>関数の学習は1年生の時から、「比例・反比例」「一次関数」と学習をしてきているが、そのどれにも当てはまるのが表、式、グラフの関連性である。その要素を授業の中で関連させながら、指導を充実させていくとともに、生徒自身が必要に応じてそれらを書いて考えられるように助言を与えていかなければならない。また、関数という概念を1年生の学習時から正しく理解させていくことも必要である。</p>

# 宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	78.5	86.9
	読解問題	70.0	78.2
	文法・表現・英作文	68.5	77.6
観点別	表現の能力	57.3	69.5
	理解の能力	73.9	82.2
	言語や文化についての知識・理解	74.1	81.6



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング (78.5%)	昨年度より、1.1ポイント上昇したが、市の平均を8.4ポイント下回っており、不十分な状況といえる。対話のリスニングにおいて、不十分さが目立つ。	「英語を聞く」ことを重点とした内容を多く取り入れ、正しい発音で英語を聞くためにALTやCDを効果的に活用していく授業を強化していく。授業の始まりの部分での日常の会話を多く取り入れながら、考えていることや気持ちを相互に伝達し合えるように、英語を聞き、話す指導を強化していく。
読解問題 (70.0%)	昨年度より1.7ポイント下がっており、市の平均を8.2ポイント下回っており、不十分な状況といえる。対話分の空所選択において不十分さが目立つ。	短文の内容把握のポイントを提示し、練習を繰り返す指導をしていきたい。また、長文の内容確認を含む小テストとテスト後の解説を実施し、内容を的確に把握できるよう、継続して指導していく。
文法・表現・英作文 (68.5%)	昨年度より1.4ポイント上昇しているが、市の平均を8.9ポイント下回っており、満足できる状況とはいえない。長文の空所選択や作文においての不十分さが目立つ。	基本文や基本単語を繰り返し練習する時間を確保し、基本表現を使って身の回りの出来事を英文や会話・スピーチなど英語で表現する場面を数多く取り入れていく。